

2025（令和7）年度 津市立三重短期大学  
一般選抜（法経科第1部、食物栄養学科、生活科学科）

英語・国語 正解一覧／小論文試験 解答例

《英語》

(1)	2	(2)	4	(3)	1	(4)	1	(5)	2	(6)	1	(7)	3
(8)	2	(9)	3	(10)	2	(11)	2	(12)	4	(13)	1	(14)	3
(15)	2	(16)	5	(17)	4	(18)	2	(19)	2	(20)	1	(21)	3
(22)	1	(23)	2	(24)	4	(25)	2	(26)	3	(27)	4	(28)	3
(29)	4	(30)	4	(31)	1	(32)	2	(33)	3	(34)	3	(35)	4
(36)	4	(37)	3										

《国語》

(1)	4	(2)	4	(3)	1	(4)	2	(5)	4	(6)	5	(7)	4
(8)	3	(9)	1	(10)	1	(11)	4	(12)	2	(13)	5	(14)	2
(15)	1	(16)	4	(17)	3	(18)	4	(19)	3	(20)	3	(21)	1
(22)	5	(23)	1	(24)	4	(25)	4	(26)	1	(27)	1	(28)	3
(29)	2	(30)	4	(31)	3	(32)	4	(33)	2	(34)	3	(35)	4
(36)	1												

《小論文》

「社会をよりよくするため、私は社会における問題の解決に関与したい」という質問に対して肯定的に回答した日本の子ども・若者の割合は43.4%であり、諸外国の73.7%から59.1%に比べて低い。一方、否定的に回答した日本の子ども・若者の割合は42.5%であり、諸外国の36.0%から23.2%に比べて高い。この結果から、日本の子ども・若者は諸外国に比べて、社会における問題解決に積極的ではない傾向が読み取れる。

その理由として、日本の子どもや若者は社会との関わりが少なく、どのように社会問題に対応すればよいか、その知識や経験がないことが考えられる。新聞やニュースでは社会問題が山積しているが、当事者にならない限り、日常生活において深く関わることはない。しかし今の子どもや若者が今後の日本を作っていくため、社会問題に対して積極的に関わり、他者と議論を交わし、実際に行動に移すことが重要である。

(392文字)